



香川県消費税廃止各界連絡会は1日、田町マルナ力前で「政治家の裏金許すな！減税するなら消費税！インボイスは廃止！」のテーマで署名と宣伝行動を行いました。

消費税導入から35年 減税・廃止を必ず！

参加者は、消費税導入から35年の節目で、3%から10%まで引き上げられ、そのたびに景気は落ち込み、暮らしや商売、地域経済悪化したとして「消費税導入以降、消費税収は累計447兆円になった一方で、所得税、法人税の減収額は累計613兆円になる。消費税は、所得税、法人税の減収の穴埋めで、富裕層、大企業を優遇する税制は大問題だ」と指摘しました。

また、「政府は大軍拡と大増税の二つを進めているが、いまこそ対話による外交努力が必要だ。物

自民党政治をいかにして終わらせるか

香川革新懇が講演会

香川革新懇は4日、高松市で乾友行全国革新懇常任世話人を招いて自民党政治をいかにして終わらせるかをテーマに学習講演会を開きました。

乾氏は、世論調査で10年ぶりの政党と内閣支持率の低迷と、自民党政治そのものの行きづまりを指摘。「自民党は、自身が失政と認める『失われた30年』の中で、賃金は上がらず、国際競争力も低下するなど経済は落ち込



んだ。

経済秘密保護法案、戦闘機輸出、自衛隊基地の地下化など、軍事、経済、研究開発などあらゆる分野で戦争する国づくりを進めている」とのべました。

東京都知事選挙など「市民と野党の共闘」の全国各地の連帯の行動を紹介し、「要求実現を根本的に保障するのは政権交代で、その土台となる市民、国民の統一戦線の運動の推進力となるのが革新懇の役割。総選挙に向け、平和、民主主義、暮らしの向上などの『3つの共同目標』を掲げ、共闘の再構築と発展が重要だ」と訴えました。

舞台太鼓

あつという間に葉桜の季節に。春というよりは初夏の気温、風はまだ冷たいものの時のめぐりは素早い。ハナミズキは黄緑の花をいっぱいにとって元気いっぱい。わか葉も天をさして意気さかん▼町角リレートーク。新学期の高校生にシールアンケート。丸亀革新懇が工夫した大判の板を使って聞くと、まず「校則で納得のいかないものは」「あるある」。

民主香川

定価 月 100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311

【3面から】 運営に取り組んで、文化・芸術は人間が生きる糧であるということを再認識しながら、この分野での日本社会の意識の低さを実感しました。

作にあたつて先ずは時代背景があり、大衆や労働者の立場で創作することで、より良い社会にしたいという思いがある。過ちを無かつた事にさせないために全国の仲間と一緒に頑張りましょう」と力強く語っていました。

頑張ってます民青同盟

民青同盟、香川県委員会委員長の藤沢直人です。民青同盟は日本共産党が活動のアドバイザーで、要求実現のために仲間とともに学び行動する青年団体です。

民青の課題としては、様々な活動で党や支部と協力関係をつま



香川でも3年ほど、学生対象の食料支援活動に取り組みました。

昨年の10月からは駅頭でシール投票を行い、日曜日、月曜日に若者の声を聞いています。直近では香川大学の新生歓迎会で7日間、加盟を呼びかけました。

民青の対象者がいる集いなどで党支部の活動に連携していきたいです。逆に、日、月の駅頭のシール投票などでは、孤軍奮闘するところもあるので、ほっとまんぶくプロジェクトのように党支部の方の支援や援助があれば、活動の幅が広がると思います。「若者とのつながりがない」とお悩みなら、ぜひ民青の活動にご助力ください。

讃岐の文学碑めぐり ⑮

一茶の西国行脚の拠点となった専念寺（観音寺市）

小林一茶

文・写真 深沢 雨根

専念寺の境内にある一茶の句碑は、寺に保存されている直筆の句を拡大模写したものだ。石碑の裏面には、次のような字句が刻まれている。

当寺ハ寛政年間俳人一茶ノ長期滞在セシ所ナリ
今其ノ自筆ノ一句ヲ模写拡
大シテ碑ニ刻シ以テ往時ヲ追懐ス

一茶が観音寺市の海岸（有明浜）で詠んだ句も残されている。「浦輪を逍遙して」と前書きがある。

天に雲雀 人間海に あそぶ日ぞ

現代語に訳すと、「空には雲雀がさえずり、海辺で人が遊んでいる。潮干狩りをしているのだろう。何とのかな春の一日だろうか」。「人間」という現代語使用に驚かされる。

一茶は寛政四年から九年にかけて西国を大旅行し、俳諧修行にはげんだ。寛政九年にも讃岐を訪れて、高松や小豆島へ足を延している（『香川県史』第三巻七八頁）。次の句は高松の屋島で詠んだものである。

四十雀 左右へ分る、
八島哉（八島とは屋島のこと）

名月や 与一が的も
かゝる夜は

（与一とは那須与一宗高のこと）

平家蟹 昔はこゝで
月見舟

（平家蟹とは平氏の兵士たちを指す）

一茶は、専念寺に三回滞在しここから九州や伊予に出かけたのである。寛政四年から七年にかけて一茶が専念寺を特に利用したのは、師匠の二六庵竹阿も観音寺に滞在したことがあるこ

と、専念寺の住職・五梅法師が同門の俳人であったこと、観音寺は「俳諧の祖」と呼ばれる山崎宗鑑の終焉の地であった事、などの理由を上げることができる。金毘羅さんにも一茶の句碑がある。一九六三年四月に建立されたものである。

おんひらく 蝶も金 毘羅 参哉

句碑は表参道から宝物館に入る角にある。一七九四（寛政六）年四月十二日に詠んだ句である。芭蕉の句を正調とすれば、一茶には庶民的なユーモアとリズムがあり、その個性がよく出ている句である。



金毘羅の句碑